

## 第3章 都市づくりの基本的考え方と理念・目標

### 1. 都市づくりの基本的考え方

#### 1-1. 都市づくりの方向転換

##### ～ 拡大から集積へ ～

本市では、これまで人口増加を前提として市街地を拡大する都市づくりを進め、住宅地や、工業団地、商業業務用地の供給や道路、公園、下水道など都市基盤の形成を行ってきました。

一方、市街地の一部で農業地域における開発が行われ、自動車社会の進展等による中心市街地や商店街における空洞化などの問題が顕在化しています。

また、今後、人口増加が期待できない状況下においては、市街地の拡大に伴う道路、下水道などの都市基盤の維持管理は財政を圧迫し、自動車利用の増加に伴う二酸化炭素排出量の増大が懸念されます。

これからは、地球環境や地域環境に配慮しつつ、人口減少・少子高齢化への対応も含め、環境的にも経済的にも持続可能な都市づくりを行っていく必要があります。

以上を踏まえ、**市街地を拡大する都市づくりから、都市基盤施設などの既存ストックを有効に活用し、拡散してきた都市機能の集積を図り、環境負荷を低減する都市づくり「エコ・コンパクトシティ」**への方向転換が必要です。

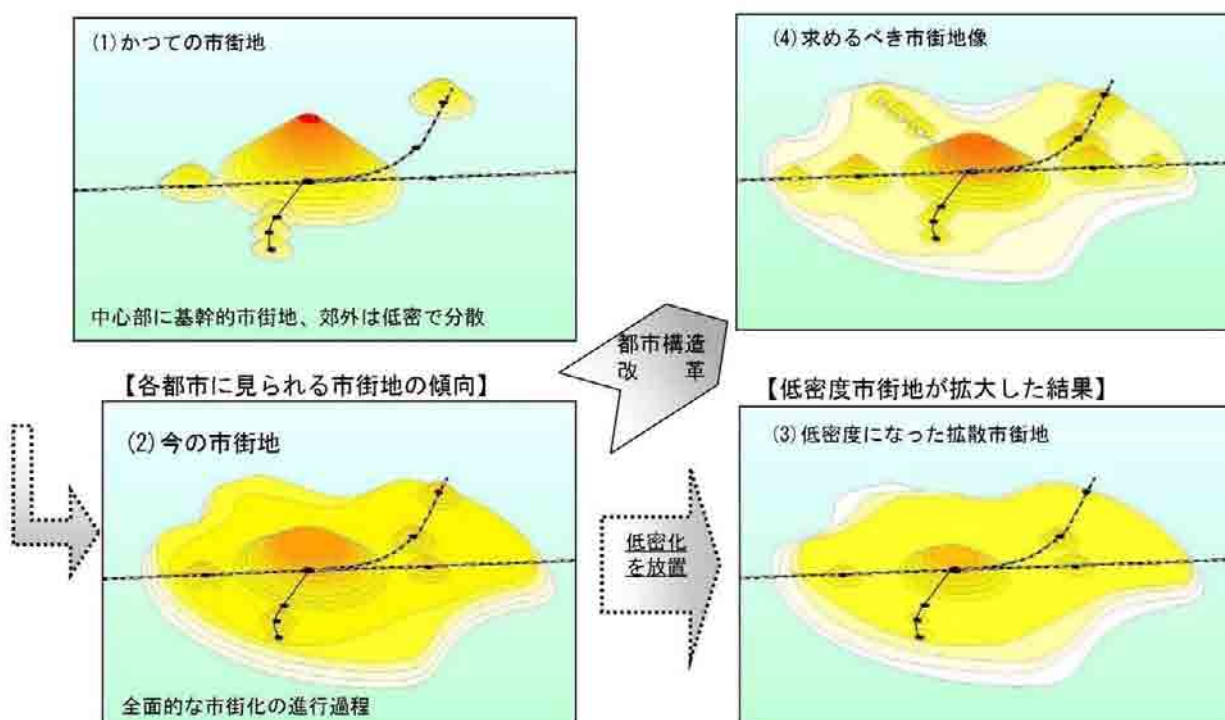


図 3.1 都市の集積化のイメージ

／資料：社会資本整備審議会都市計画・歴史風土分科会都市計画部会都市交通市街地整備小委員会資料

## ～ 行政主体からコミュニティ主体へ ～

本市では、滝川公園、石狩川の治水事業（石狩川沿岸道路の整備による堤防整備）など、過去に市民が主体となって都市を形成してきた歴史的経緯があります。今後の都市づくりにおいても、このような先人に学ぶべき精神を引き継ぎながら、新たな都市づくりを進めることが重要です。

また、これまで国が地方の都市づくりを主導する傾向にありましたが、近年は、地方分権が進み、様々な行政分野について地方の主体性にゆだねることが増えてきました。一方、市民の価値観や生活の多様化などによって、旧来の行政サービスにおいては市民ニーズへの対応に限界が見られます。

少子高齢化で多様化する住民ニーズに応え、「いつまでも住み続けたい、いつかは住みたい滝川市」を持続させるために、今後は既存の枠組みを抜本的に見直し、地方行政と住民・NPO等が協働で住民本位の都市づくりを進めていくことが求められています。

以上を踏まえ、**今後は行政による基盤整備を主体とした都市づくりから、公共施設などの既存ストックを活かし、住民が主体となって住民一人一人の生活に重点を置いた都市づくり「コミュニティを核とした都市づくり」へと新たな展開を図ります。**

### 1-2. 滝川市における「エコ・コンパクトシティ」

#### （１）エコ・コンパクトシティの考え方

「エコ・コンパクトシティ」は、画一的・拡大志向の都市づくりではなく、**地球環境や地域環境に配慮しながら、市民の暮らしやすさに視点を置いて、多様なライフスタイルに応じて市民が選択できる都市へと再生を図っていきます。**

滝川市の地域特性を踏まえた「エコ・コンパクトシティ」とは、以下に示すような特徴を持つ都市とします。

#### 《都市のゾーニング》

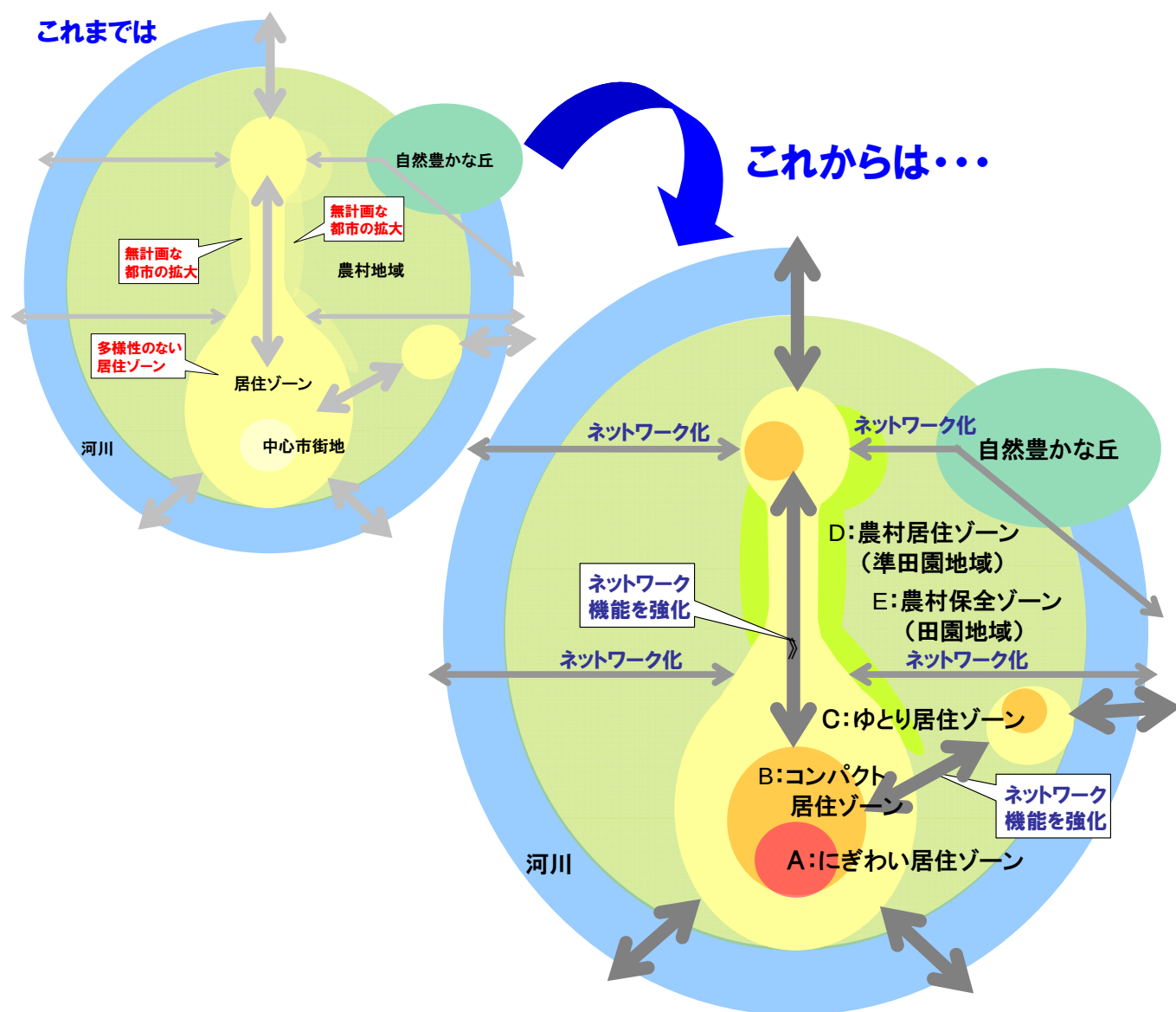
- ①都市の機能を集約し、**中心市街地のにぎわいを創出**する
- ②街なか居住を促進するなど、**高齢者などが歩いて暮らせる環境づくり**を進める
- ③公共交通を中心とした**利便性の高い住宅地を形成**する
- ④郊外への市街地の拡大を抑え、周辺の**豊かな農村・自然環境を守る**

#### 《都市形成のあり方》

- ⑤公共交通による移動を中心とし、自動車交通への過度な依存を抑制し、**環境負荷の低減**を図る
- ⑥これまで整備を進めてきた既存の都市基盤を有効に活用し、**都市づくりのコスト縮減**を図る
- ⑦地域の特徴である２大河川、**豊かな自然、農村環境を活かした都市を形成**する
- ⑧地区特性を活かして**都市の活力を創出**する

#### （２）滝川市における「エコ・コンパクトシティ」のイメージ

以上を踏まえた「エコ・コンパクトシティ」の形成を進めるための新たな都市の将来イメージを次ページに示します。



| ゾーン分類 |                   | ゾーン特性                                           | 移動                                  | 活力                                             |
|-------|-------------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------------------|
| 都市    | A:にぎわい居住ゾーン       | ・都市の主要な機能が集約し、中心市街地のにぎわいが見られる                   | ・歩いて便利に暮らせる環境が整っている                 | ・都市の拠点として、多様な交流により都市の活力を創出する                   |
|       | B:コンパクト居住ゾーン      | ・都市のコンパクト化を図る地域として、公共交通ルート軸を中心として利便施設が集約している    | ・公共交通と徒歩により、便利な生活ができる               | ・既存都市基盤を活かして都市の活力を創出する                         |
|       | C:ゆとり居住ゾーン        | ・低密度でゆとりある居住環境が整っている                            | ・交通ネットワークを活用し、車と公共交通の両立により便利な生活ができる | ・周辺の農村環境を保全するとともに、都市外との交通ネットワークを活かして都市の活力を創出する |
| 農地保全  | D:農村居住ゾーン (準田園地域) | ・農村環境を保全しつつ、その環境に調和した居住が可能である                   | ・交通ネットワークを活用し、車と公共交通の両立による生活となる     | ・農村環境を活かして都市の活力を創出する                           |
|       | E:農村保全ゾーン (田園地域)  | ・効率性の高い生産緑地として、営農環境を保全する<br>・地域資源としての自然や農村環境を守る | ・交通ネットワークを活用し、車を中心とした生活となる          | ・農村環境を活かして都市の活力を創出する                           |

図 3.2 エコ・コンパクトシティのイメージ図

### 1-3. コミュニティを核とした都市づくり

#### (1) コミュニティを核とした都市づくりの具体的なイメージ

コミュニティを核とした都市づくりにおいて、想定される都市活動の具体的なイメージを以下に示します。

##### 【想定される都市活動（例）】

- ①地域づくり計画の策定、地区計画等の提案（都市計画提案制度の活用）
- ②コミュニティ拠点の形成、交流活動
- ③空き地の活用・管理（堆雪スペース、休憩スペース、市民農園、花壇など）
- ④高齢者等の生活支援（見守り活動、除雪、買い物等の移動支援など）
- ⑤地域内の公共空間の管理（ゴミ拾い、植樹など）
- ⑥地域防災活動（地域パトロール、防災支援マップの作成、災害時の高齢者等の支援など）

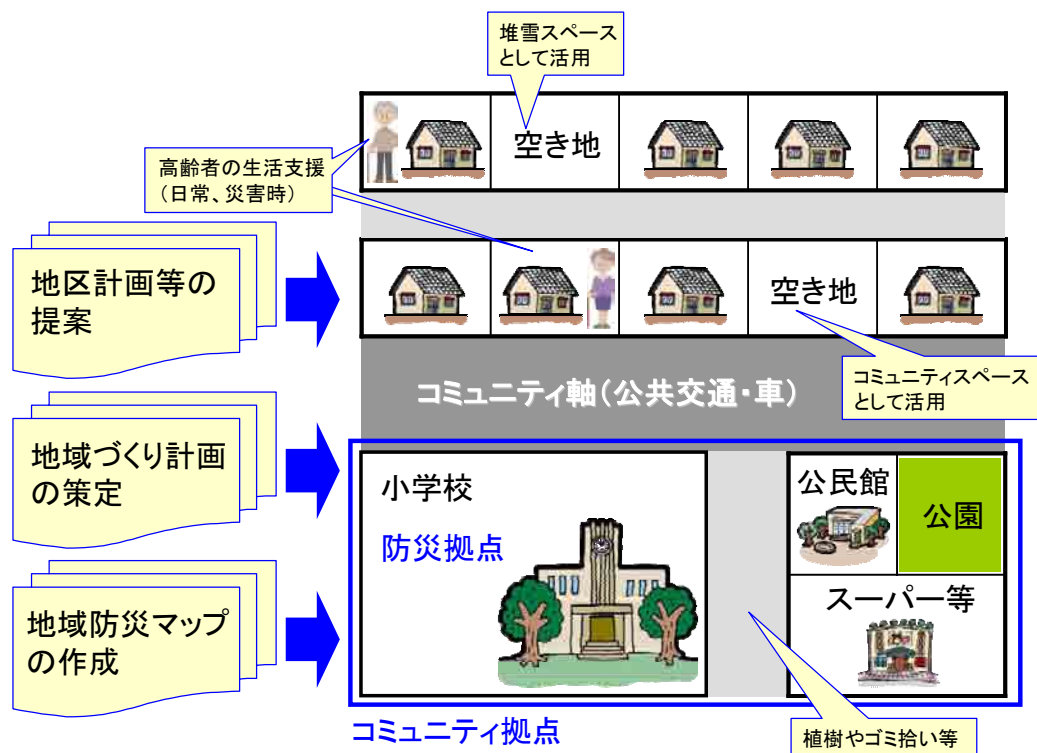


図 3.3 コミュニティが主体となった都市づくりのイメージ図

## (2) 「新たな公」による都市づくり

滝川市が今後目指す「コミュニティを核とした都市づくり」においては、従来における行政が行う都市づくりに関する公共サービスに限った「公」を見直します。

地域活性化、高齢者福祉、生活支援、住民防災などの分野で、**市民・NPO等・行政の協働による「新たな公」**により、多様なコミュニティ構成員のニーズに応える新たな枠組みのもとで、都市づくりを試行的に進めていきます。

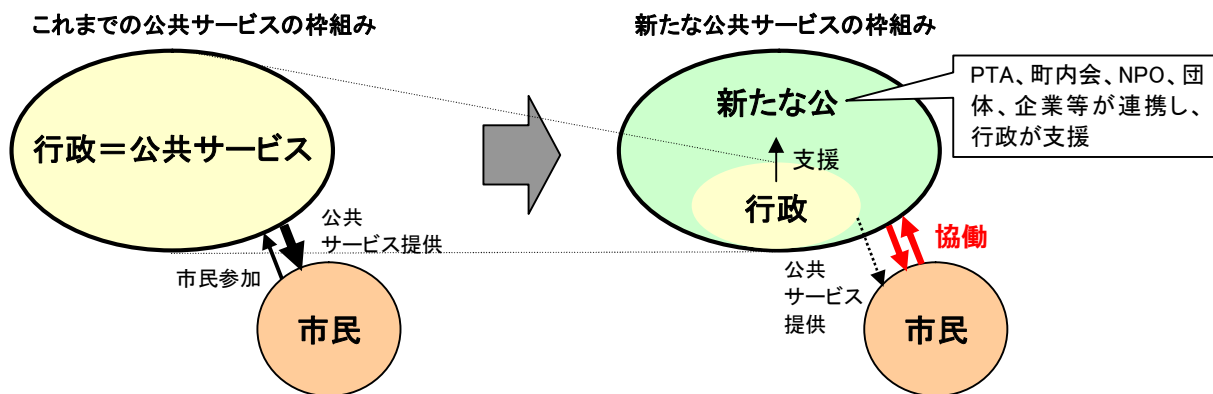


図 3.4 公共サービス提供の枠組み

## (3) コミュニティを核とした都市の骨格のイメージ

滝川市におけるコミュニティを核とした都市の骨格とは、以下の条件を満たすものとします。

- ①住民主体の都市づくりを行うことができる一定範囲の**コミュニティ街区**を設定
- ②コミュニティ街区内に**コミュニティ拠点**（学校・公益施設・公園・商店からなる）を配置
- ③各**コミュニティ拠点間**を公共交通機関や道路によって**ネットワーク化**
- ④コミュニティ拠点を中心とした**コミュニティ軸**を設定
- ⑤コミュニティ街区内の**コミュニティ拠点とのアクセス**性を確保

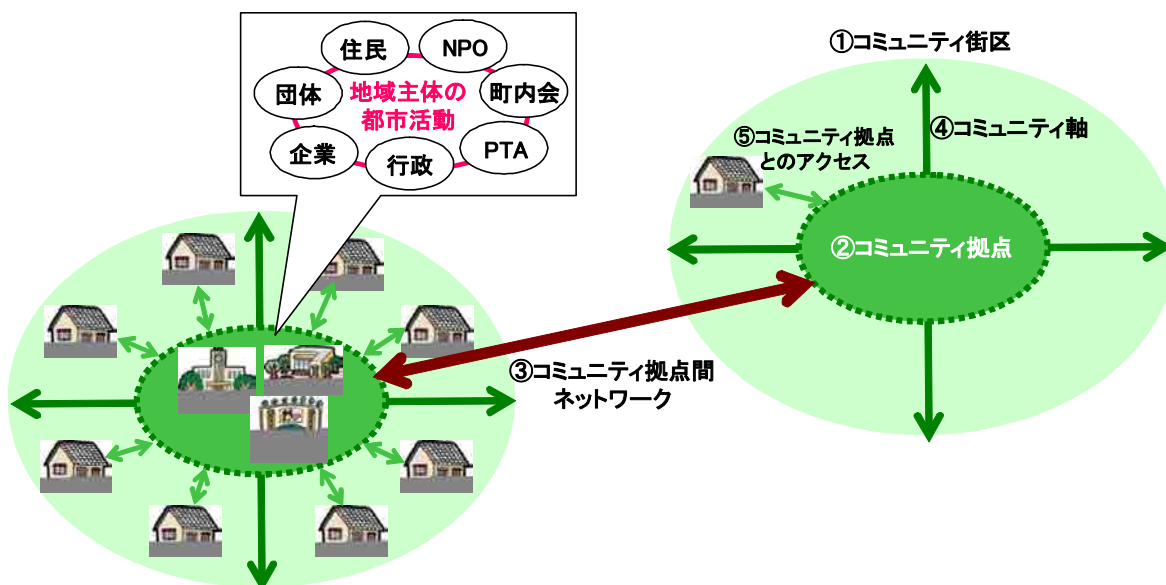


図 3.5 コミュニティを中心とした都市の骨格のイメージ図

#### (4) コミュニティを核とした都市づくりの進め方

新たな公による都市づくりを進めるために、以下の図のような手順で体制づくりを進めることが考えられます。

##### ①準備段階（本計画策定時）

今後の各地域の課題や取り組むべきこと、考えられる体制などについて検討を行います。

##### ②計画運用時（本計画策定後）

新たな都市づくりの実現に向けて、地域コミュニティが主体的に都市づくりを推進するための仕組みづくり（関係主体による地域づくり協議会の設置、活動拠点の設置等）についての検討を行います。

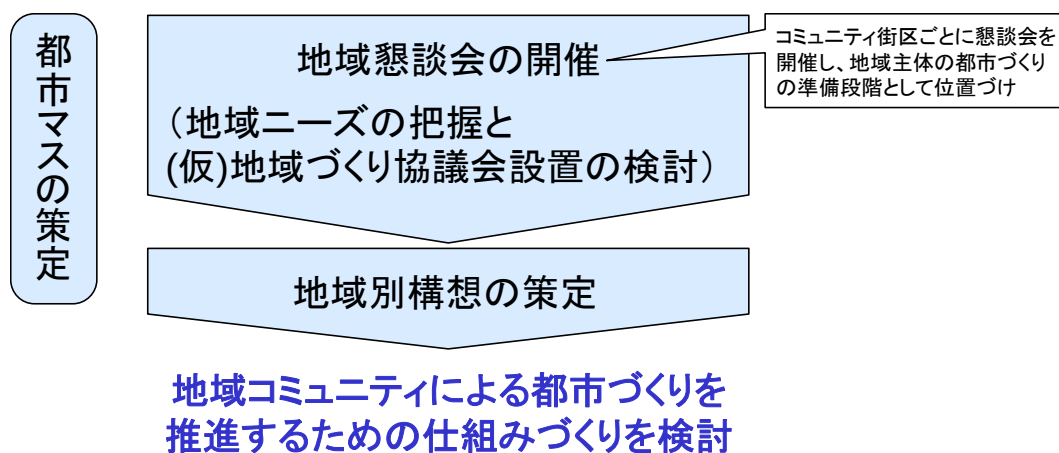


図 3.6 コミュニティ主体の体制づくり検討の進め方

## 2. 基本理念

前述の「1. 都市づくりの基本的考え方」を踏まえ、滝川市の今後の都市づくりの基本理念を以下のように設定します。

# 市民が創る 「北のエコ・コンパクトシティ たきかわ」

### （１）コンパクトシティの実現

道路軸等への都市機能の集約により市民の暮らしやすさを向上・持続するとともに、交通利便性を活かして地域活力を創出し、滝川市の地域特性に応じたコンパクトな都市の形成を目指します。

### （２）エコシティの実現

地域資源である豊かな自然環境、農村環境を守りつつ、河川に囲まれた特徴ある自然環境や市街地を取り巻く豊かな農村環境と密接に結びついた都市づくりを進めます。また、公共交通の利便性促進、自転車利用の促進、エコカーの導入促進、既存施設等の資源の有効活用などにより、地球環境にやさしい低炭素型都市の形成を目指します。

### （３）市民が創る都市の実現

市民が主体となって、市民が暮らしやすい、満足できる、住み続けたい都市づくりを進めていきます。

## 3. 基本目標

### 基本目標１：高齢者・障がい者・子どもなど、みんなが暮らしやすい都市づくり

コンパクトで利便性の高い都市構造、ゆとりがあり、快適に暮らせる居住環境、安心で安全に暮らせる都市、多様なニーズに対応できる都市を目指し、少子高齢社会において、高齢者、障がい者、子どもなど、みんなが暮らしやすい都市づくりを実現します。

### 基本目標２：既存ストックを活かした活力ある都市づくり

既存都市基盤の維持・活用を図りながら、都市機能の集約化を進め、道央広域連携地域の地域中心都市（P6 1-1 参照）としての役割を強化し、また、交通利便性を活かしてさらなる都市の活力を創出することにより、既存ストックを活かした活力ある都市づくりを実現します。

### 基本目標３：豊かな環境を守る・活かす都市づくり

重要な地域資源である豊かな自然環境、農村景観を保全し、また、石狩川、空知川などの自然環境と密接に結びついた都市づくりを進めるとともに、環境を活かして健康に暮らせる都市づくり、地球環境にやさしい都市づくりを目指し、豊かな環境を守る・活かす都市づくりを実現します。

## 4. 将来都市構造

滝川市が今後目指す都市像は、都市の基本的な骨格を示す「**都市構造図(骨格)**」とコミュニティを軸とした骨格を示す「**コミュニティ街区構造図**」により設定します。

### 4-1. 将来都市構造図（骨格）

都市の基本的な骨格を示す「将来都市構造図（骨格）」を以下のように設定します。

#### 【土地利用】

- ・既存エリアに加え、**道路交通網を活かした商業・工業の配置**
- ・**都市幹線（環状）沿道外住宅地の低密度化**
- ・準田園、田園地域における**農地の保全**
- ・滝川市街地の都市幹線、江部乙市街地、東滝川市街地に**コンパクト化を図る都市構造**

#### 【交通軸】

- ・「**4放射1環状（P70 表 4.3、P74 参照）**」を軸とした交通体系

#### 【環境軸、エリア】

- ・石狩川、空知川、都市内河川を軸とした**緑のネットワークと自然環境エリア**を位置づけ
- ・自然環境の保全を基本としつつ、都市内で発生する二酸化炭素を吸収し、観光・教育・防災等の多様な市民の都市活動の場として活用するなど、**エコ・コンパクトシティの実現に向けた重要な資源**としての役割を担う

#### 【拠点・ゾーン】

- ・**中心市街地、地域交流の機能強化**

### 4-2. コミュニティ街区構造図

コミュニティを軸とした骨格を示す「コミュニティ街区構造図」を以下のように設定します。

#### 【コミュニティ街区】

- ・**小学校区を基準として設定**

※現時点の小学校区を基本として設定するが、学校の適正配置の検討により学校区の変更が生じた場合には、その時点のコミュニティの状況を勘案した上でエリアの変更を検討する。

#### 【コミュニティ拠点】

- ・原則として、小学校を含むエリアを設定し、その周辺に**地域活動の拠点施設等を集約**

#### 【拠点間ネットワーク】

- ・主要幹線街路、都市幹線街路を基本として、**公共交通を中心としたネットワークを形成**

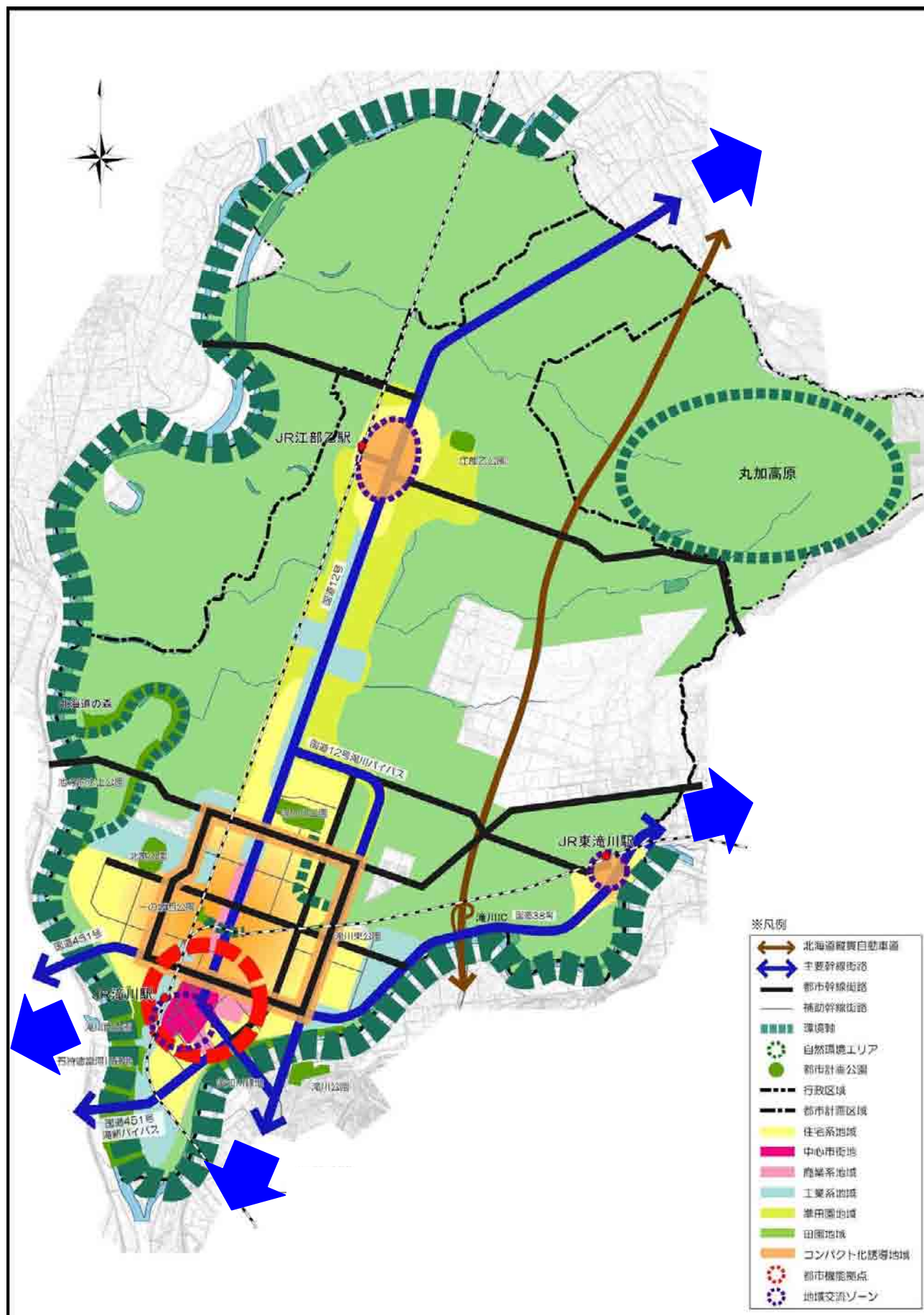
#### 【コミュニティ軸】

- ・コミュニティ拠点を通過する**都市幹線街路**について、**コミュニティ活動を活発に行う軸**として位置づけ

#### 【コミュニティ街区内の拠点とのアクセス】

- ・各住民の住居が**コミュニティ拠点にアクセスしやすいネットワークを形成**

◆将来都市構造図（骨格）



◆コミュニティ街区構造図

